資料2

第1回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の概要

日　時：平成29年8月9日（水）　午後1時から午後3時まで
場　所：自治会館201会議室

【第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

第1回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の主な御意見

1．施設・ソフトの充実

（1）ハード施設

・施設整備及び整備後の維持管理についてどうするか。県の考え方を示してもらえるとありがたい。

・実際に遺物をみて感じてもらうための保存の取組。

（2）ソフト充実

・施設整備後の活用，ソフト事業の運営等。

・リピーターをどのように増やしていくのか

・DMOの仕組みを取り入れたり，スタンプラリーなどの楽しみながら学んでもらう仕掛けが必要。

2．語り部・アーカイブ・防災教育

（1）語り部

・語り部の担い手育成・確保・組織化。

（2）アーカイブ

・バラバラに取り組んでいるアーカイブの統合。

・サーバー費用などの維持管理費の負担と広域連携による費用圧縮化。

・アーカイブや震災資料の保存・維持管理について，県全体の共通のプラットフォームにデータを蓄積していくべき。

第1回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の主な御意見

（3）防災教育

・震災を知らない世代の入学に伴い，教育の考え方の整理が必要。
・学校の総合学習・修学旅行等を活用した震災未経験世代への伝承。

3．連携・ネットワーク化

・共通のパンフレット・映像等の作成。
・全県での回廊は難しい。被災15市町の情報発信・客を導くゲートウェイ機能をどこが担うのか。南浜の国営追悼・祈念施設がゲートウェイになりうると考えている。
・地震・津波ミュージアムが東日本大震災全体の体験・経験を伝える場となればよい。
・広域連携については効果的な面と同時に難しい面もあると考える。類似の施設はいらないのではないか，という議論にもなりかねない。各市町で作りつつもお互いに活用できる方策が必要。

4．その他

・安定的・継続的な仕組みをどのように作るか。
・体系的に，県・町・民間などの役割分担をしながら取り組むことが必要。
・記憶の風化や興味・関心の低下。
・地元の人間の記憶を風化させないことを前提に，外にいかに伝承するかが重要。
・亡くなった方の鎮魂の施設もあり，遺族の方への配慮が必要。
・インバウンド増加に対する，外国人向け研修会などの開催。